ウェルネスツーリズムによる朝里川温泉をモデルにした活性化調査事業

国土交通省
北海道運輸局

背景

世界的な健康意識の高まりから世界における健康産業分野の成長は、注目の分野となっている。
日本でも、観光立国推進基本計画の中で、ウェルネスツーリズムなどの取組が行われている。
北海道には、資源はあるものの、個別施設等の取組のことが多く、更なる外国人観光客を受入れに当たって、課題を整理して今後の取組の方向性の整理が求められている。
朝里川温泉では、「ウェルネスツーリズム」の実現に向けて、「癒し」「健康」と温泉郷と結びつけて、各種の取組みを行っており、ドイツ型健康保養地を参考にした「クアオルト」環境を目指している。

目的

この朝里川温泉にて、実態調査を行い、地域の課題を抽出し、磨き上げを図り、北海道でのウェルネスツーリズムのコンテンツ整備、受入体制の強化に資すること目的に調査を行った。
訪日外国人観光客の対象は、北海道の統計データから北海道および小樽市では中国・香港・台湾の中華圏からの来訪が多いことから、中華圏を主な対象市場とした。

調査協力体制

朝里川温泉組合
小樽市

文献等調査

- 地域の取組みを自己評価できる「日本型クアオルト指標」がある。
- 地域の取組みを評価、見える化する、表彰制度・認証制度がある。
- 取組みのキーワードは、温泉、ウォーキング、地元食材、楽しむ。
- クアオルト推進の国内先進事例には、山形県上山市での取組みなどがある。
- 自治体との連携と体制づくりが重要。

朝里川温泉の観光資源調査

朝里川温泉周辺には、「朝里川沿いの散策路」、「朝里川温泉スキー場」、「朝里川ダムなどへのサイクリング」、「硝子工房などでの制作体験」などがあり、ウェルネスツーリズム(クアオルト)の推進に活用できる可能性のある観光資源の素材が存在することが分かった。
また、日本政府観光局(JNTO)の調査から、中華圏の人々には健康志向のあることを確認した。

朝里川温泉の課題抽出調査

意識調査(アンケート調査)では、中華圏(中国・香港・台湾)の方が多く来訪しており、「温泉街の散策路の充実」や「歩くスキー、スノーシュー体験」などを望み、「スポーツ活動」や「健康的な食事」に興味のあることがわかった。

ワークショップを開催して、朝里川温泉には「ターゲットを絞った情報発信の強化」、「温泉地としての魅力の開発」、「快適な受入環境の整備」が必要なことが分かり、「若者にアピールできる温泉地づくり」、「健康をテーマとした温泉地づくり」、「インバウンドに対応した温泉地づくり」を目指して朝里川温泉のブランド化を図る必要性のあることが把握できた。

朝里川温泉におけるウェルネスツーリズムの推進方向

朝里川温泉には、人々の心と体を癒す温泉(湯)があり、また宿泊施設やレクリエーション施設等も整っていることから、ウェルネスツーリズムを推進する拠点に適した場所と考えられる。
ウェルネスツーリズムの推進ためには、「温泉」、「自然」、「運動」、「食事」、「交流」による癒しの実現が必要な要素となる。
今後、「関係者のコンセンサス」、「事業計画策定と予算確保」、「推進体制」、「象徴事業の実施」、「周知」、「健康がテーマの滞在者向け旅行商品開発」を図っていく必要がある。

散策路

朝里川

スキー場

ループ橋

朝里ダム

今後の朝里川温泉の観光振興に関する提言

ウェルネスツーリズム推進の基盤となる朝里川温泉全体のまちづくりについて、以下を提案する。
①北海道クアオルトを目指した温泉地づくり
②国際化に対応した個性的なスキーリゾート開発
③小樽観光における朝里川温泉の位置づけの再構築

効果

① これまで正確に把握されていなかった朝里川温泉宿泊客の実態が、今回のアンケート調査で明らかになった。
② ワークショップを実施して、朝里川温泉関係者の課題の共有を図ることができた。
③ 健康・ウェルネスツーリズムを目指した朝里川温泉の今後の推進方向を示すことができた。